



かわべ

議会
だより



うまく書けたかな(書き初め・川辺北小学校)



目次

環境美化条例の制定	2
山楠公園再整備事業費を可決	2
左岸遊歩道整備工事に着手(第3回臨時会)	3
一般質問 5氏が13項目を質問	4~10
編集後記	10

12月定例会

(12月12日～19日まで)

清潔で美しい町づくりを進めるため、環境美化条例を制定

環境美化条例の制定、一般会計補正予算、4特別会計の補正予算など14議案を審議し、いずれも可決しました。

可決案件

環境美化条例の制定

空き缶などの散乱、飼犬のふん害の防止、土地占有者の清掃努力など、必要な事項を定め、町民あげて清潔で美しいまちづくりを推進するため条例の制定をしました。(賛成多数で可決しました)

財産の処分

国道41号線美濃加茂バイパス事業の用地として、山楠公園敷地の一部が買収されることとなったため、その処分を決定しました。

- ・土地の所在
西柵井及び下川辺地内
- ・面積
1万4135・60平方メートル
- ・売渡金額
6378万8385円

15年度一般会計補正予算(第4号)

歳入歳出それぞれ2億2580万4000円を増額しました。

主な内容は

山楠公園敷地の一部が買収されることによる、山楠公園再整備事業費として2億1800万円の増額、老人保健特別会計繰出金557万4000円、下水道事業特別会計繰出金1131万1000円を増額しました。

15年度国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)

歳入歳出それぞれ3788万9000円を増額しました。

主な内容は

本年度の医療費で不足が見込まれる、退職被保険者の療養給付費と一般被保険者、退職被保険者の高額療養費を増額しました。

15年度老人保健特別会計補正予算(第2号)

歳入歳出それぞれ427万7000円を増額しました。

主な内容は

老人医療費の本年度不足が見込まれる、医療給付費と高額療養費を増額しました。

15年度下水道事業特別会計補正予算(第2号)

歳入歳出それぞれ6180万円を増額しました。

主な内容は

下水道工事において、農業用水パイプライン及び水道管の布設替えが必要となったため、工事費及び水道会計への水道管布設替工事補償費の増額をしました。

15年度水道事業会計補正予算(第2号)

下水道工事にかかる水道管布設替工事費を増額しました。



ポイ捨てのない美しい町づくりを

工事請負変更契約の締結

・北部公民館建設工事
 主な理由
 建物基礎部分の岩掘削量が増となったため。
 変更前
 8032万5000円
 変更後
 8369万1300円
 ・飛騨川右岸汚水幹線管渠布設工事
 主な理由
 自然流下管をポンプによる圧送管に変更したことによる。
 変更前
 1億4700万円
 変更後
 1億5659万9100円

その他の案件

専決処分の報告
 ・損害賠償額の決定
 ・15年度下水道事業特別会計補正予算（専決第1号）



完成した北部公民館（1月15日）

可決案件
 ・15年度下水道事業特別会計繰入金の変更
 ・岐阜県市町村会館組合を組織する市町村数の増減（本県市設置関係）
 ・岐阜県市町村会館組合を組織する市町村数の増減（郡上市設置関係）
 ・中濃地域農業共済事務組合を組織する地方公共団体の数の減少、同組合の財産処分及び規約変更（郡上郡町村脱退関係）
 ・中濃地域農業共済事務組合を組織する地方公共団体の数の増加及び同組合の規約の変更（郡上市加入関係）

第3回臨時会

第3回臨時会が11月12日開催され、提出された案件はすべて可決しました。

可決案件

内の1路線を認定しました。
 9万1000円を減額しました。
 内容は

専決処分

・平成15年度一般会計補正予算（専決第3号）

職員給与に関する条例等の一部改正

中川辺大北公民館増改築にかかる、地区集会施設整備費補助金253万

11月9日行われた衆議院総選挙と最高裁判所裁判官国民審査の執行にかかる経費を増額しました。

職員の給与及び手当と、常勤の特別職及び議会議員の期末手当の支給率を、人事院勧告に準じて引き下げました。

15年度下水道事業特別会計補正予算（第1号）

ふるさと創生ダム湖周辺整備事業飛騨川左岸遊歩道新設工事請負契約の締結

岐阜県市町村会館組合を組織する市町村数の増減

15年度水道事業会計補正予算（第1号）

契約金額 7560万円
 請負業者 川辺町比久見
 1568
 株式会社 小栗建設

市町村合併に伴い、町が加入している当組合の構成市町村の脱退及び加入の承認をしました。

職員の人事異動による各会計間の人件費の増減及び職員の給与改定による人件費の減額をしました。

町道の路線認定
 福島地内から比久見地

15年一般会計補正予算（第3号）
 歳入歳出それぞれ91

一般質問

そこが聞きたい —— 知りたい

定例会の最終日の12月19日、5名の議員が質問に立ち、13項目にわたり町政をたどりました。
質問と答弁の内容は次のとおり。



安田昌次議員

PF I方式導入の考えはないか

【安田議員】民間資金等の活用による公共施設等の整備の促進に関する法律、いわゆるPF I推進法が制定された。

町の施設等の建設、維持管理・運営等に、民間の資金、経営能力、技術を活用し、効率かつ効果的に公共サービスができるよう、PF I方式を導入したら良いと思うが、考えを伺う。

事業の推進は様々な手法を検討する

【佐藤町長】PF I導入は、事業規模や内容によってメリット、デメリットがある。一般的には事業費が巨額な事業、管理・運営が複雑な事業、行政に専門的な技術がない事業が適しており、その逆の事業や設備投資が主である事業の場合は市町村の直営方式が良いと考える。

以上のことから、今後の公共事業の推進にあたっては、PF Iも含めて事業主体の問題だけでなく、様々な手法を検討していく。

解説
PF I(プライベート
ファイナンスイニ
アチフ)

民間資金による社会資本整備
道路や港など社会資本の整備運営に民間の資金やノウハウを取り入れることで、効率化と質の向上を図ること。



安全に気を付けて(児童の通学風景)

安全で安心できる町づくりへの取り組みは

【安田議員】本町における事故や犯罪が増加傾向で、夜間、民家や事務所での窃盗事件が前年の4倍と多発している。

生活安全推進協議会の提言をもとに安全・安心できるまちづくりを推進する

【佐藤町長】近年は住民の生活環境の変化により、従来地域社会が伝統的に有していた、自主防犯機能が低下し、その結果、犯罪等が増加してきていると思う。

町では生活安全条例を制定し、平成13年に生活安全推進協議会から町民の安全・安心について提言をいただいている。その提言を受け、犯罪・交通事故の抑制・防止のため区、消防団、交通安全

安全で住みよい町の実現を図るため、町の生活安全条例が平成11年に制定されているが、具体的にどのような施策を講じられているのか、また、生活安全推進協議会が設置されているが、会議の取り組み状況はどのようなものか。

そこが聞きたい —— 知りたい



協会、青少年健全育成推進指導員などの各種団体と連携し、啓発活動及び抑制活動を実施している。現在は、独居老人宅の防火指導、老人をねらった高額商品の販売・詐欺などの被害の防止、老人の交通安全教室の開催等各種団体・関係機関の協力のもとに対策を実施している。

今後も、協議会からの提言をもとに、安全・安心できるまちづくりを推進していきたい。



多くの参加者があった土づくり勉強会



佐伯陽子議員

有機農業推進施策の継続を

【佐伯議員】21世紀は「水と生命」の世紀であると言われている。生命すな

わち「食物」のことを真剣に考えなければならぬ時期にきている。町民が主体となって行われている「土づくり勉強会」も町内外から多くの参加者があり、熱心に行われている。現在進められている有機農法推進施策を、市町村合併後もぜひ継続されたいが、考えを伺う。

多くの方に取り組んでいただくよう、啓発活動を続ける

【日下部産業環境課長】農業の自然循環機能の維持増進により、環境と調和のとれた農業生産の確保を図る「資源循環型農業総合対策事業」は、クリーン古里づくりの会の協力を得て実施してきたが15年度で終了する。消費者ニーズにあった「安全、安心、健康」な野菜作りへの傾向は高まってきており、健康志向の表れであると思う。一人でも多くの方が取り組んで

いただけるよう啓発活動を続けていく。

ふるさと応援団の創設推進を

【佐伯議員】川辺町出身者が故郷から離れている方々が、川辺町の名所や特産品に触れられることで、ふるさとを思い、懐かしんでいただき、併せて川辺町をアピールできるように、県内各地域に出身者の会「ふるさと応援団」を創設したら良いと思うが、考えを伺う。

市町村合併が成就した後に進めることが適当

【佐藤町長】現在、市町村合併に向け協議を進めているところであり、現時点では、本町のみ行政主導で「出身者の会」を設立することは、いささか問題がある。市町村合併が成就した後に、改

めて進められることが最も適当であると考える。



牧田富朗議員

16年度の予算編成基本方針は

【牧田議員】合併協議が進んでいる中、いよいよ川辺町の幕引きが近づいてきた。国においては、地方分権、税財政改革いわゆる「三位一体改革」が進められているが、町長にはやり残し事業がないよう思い切った大型予算を編成されるよう要望する。予算編成における基本方針を尋ねる。

健全財政を堅持し、住民のために真に必要な施策を進める

【佐藤町長】16年度の予算編成にあたり、健全な財政運営を堅持しつつ、住民のために真に必要な施策を積極的に進める方針である。

具体的には、
国の三位一体改革や構造改革など、国の予算編成及び地方財政対策等の動向に留意した的確な対応。

町の行財政改革の手を緩めることなく、より積極的に推進し、一般財源の歳出抑制に努め健全な財政運営を行う。

施策の選択に当たっては、過去の先例・慣習にとらわれることなく新しい観点で判断する。

住民サービスに影響を及ぼさず、スムーズに新市に移行するための行財政構造の構築。

以上の4点を基本姿勢として職員に指示した。

諸事業については、やり残した事業がないよう来るべき市町村合併に備えていきたいと考えているが、やり残しというより、まだまだ、やらなければならぬ事業がたくさんあり、現在実施している事業を進めるとともに、何が町民にとって必要か、何を新市に引き継ぐべきかを慎重に見極めなければならぬと考えている。

財政状況が非常に厳しく、経常収支比率が上昇し、余裕財源が乏しい現在にあって、合併前の重要な予算編成に取り組むことは非常に難しいもので、議員の皆さん、町民の皆さんの格別の御理解と御協力をお願いしたい。

解説 経常収支比率とは

地方公共団体(町)の経常的経費(人件費、物件費、維持補修費、扶助費、公債費(借金の返済費)など)に對して経常的収入(普通交付税、地方譲与税、普通交付税、使用料、手数料など)がどれだけの収入があるかを指す。経常収支比率が低い方が財源に余裕があり、新しい事業などに使える。

非常勤の学校獣医師の配置を

【牧田議員】小学校と保育所には小動物が飼育されているが、動物の病气やけが、衛生面、事故、児童への影響等の問題はないか。年1回の、獣医師会による巡回指導が実施をされているが、動物愛



動物の世話は、自分達で(川辺北小学校)

そこが聞きたい —— 知りたい

護からの情緒教育を一層進めるため、獣医師と学校が連携をとり動物飼育ができるよう学校獣医師の配置をしたら良いと思うが所見を伺う。

獣医師会と委託契約 をしている

【横田教育課長】小学校の動物飼育は、「学校飼育動物飼育環境等指導事業」で、岐阜県獣医師会と業務委託契約をして、動物の飼育指導及び保健衛生指導、飼育管理及び飼育環境の点検指導、動物を世話する児童の教育指導への助言、各種疾病検査及びワクチン接種を実施している。業務の期間は1年間で、今年度の巡回指導は各小学校とも6月に、獣医師2人と中濃家畜保健所、中濃地域保健所からも出向いていただき事業を実施した。

地域ぐるみの学校 安全対策の取り組み

【牧田議員】多くの子どもが被害に関わる事件が発生している。次の3点について伺う。

地域ぐるみの学校安全推進モデル事業の概要と具体策は



学校安全(川辺東小学校)

地域の協力、支援体制は

「子どもの居場所づくり新プラン」と児童クラブとの関係は

子どもの安全は地域 住民の理解と協力で 成り立つ

【加藤教育長】全国的に

子どもに関わる重大な事件が多発している。この地域でも今年4月から現在までに、不審電話51件、変質者情報62件あった。幸いにも現在のところ事件につながったものはないが、こうした環境の悪化に対して、学校を通じてPTAや地域の方々に子どもの安全に関して意識の啓発に努めている。具体的な活動としては、学校における危機管理マニュアルの整備、防犯教室、防犯ベルの配布、子ども110番の家へのマイレター作戦、地域安全マップの作成、講演会などの諸活動を進めている。活動を進めるにあたっては、「学校安全推進委員会」を組織しているが、子どもの安全は、すべての地域住民の理解と協力によって成り立つものであると考えている。

子どもの居場所づくり新プランは、子どもに関わる重大事件の多発など深刻化する青少年の問題

行動に対応するため、文部科学省で計画されたもので、具体的な事業計画が示されたら対応を考えて行きたい。

消防団の後方支援 として女性防火ク ラブの設置を

【牧田議員】災害に対しての危機管理組織強化のため、女性防火クラブを設置したらどうか。

他市町村の動向をふ まえて検討してい きたい

【伊藤助役】町内の女性防火クラブは、就労される女性の増加に伴い、入会者が減少し、平成13年に解散された。

消防防災組織の強化の一環として女性による防火クラブの組織化は重要であると考えている。現在市町村合併協議が進められているので、他市町村の動向もふまえて検討して

一般質問

いきたい。

火災報知器設置費用の助成制度の創設を

【牧田議員】全国的に一般家屋火災で焼死者が多く出ているが、住民が火災を早く察知し、避難ができるよう一般家庭での火災報知器の設置費用に対して、助成制度の創設はできないか。

国の動向に注視し対策を検討していきたい

【伊藤助役】火災による死者の58%が逃げ遅れによるもので、犠牲者の多くが高齢者となっている。消防庁では、従来の自助努力を中心に考えられてきた住宅防災対策のあり方を、消防審議会に諮問している。これらの動向を注視し、対策を検討していきたい。

自主防災組織の設置を

【牧田議員】消防団、消防署の防災活動を強力に支援する自主防災会の設置を提言するが、考えを伺いたい。

現在の区の活動が自主防災会である

【伊藤助役】町の防災計画の中で自主防災組織の育成と強化を位置づけており、各区で自主防災組織を編成することとして



消火ホースを点検中の比久見花井班の皆さん

いる。防災訓練では、区長さんが各区の防災隊長で、初期消火訓練、炊き出し訓練などを実施いただいている。

また、実際の火災等では区・組の皆さんが初期消火、炊き出し応援、後片づけなどをされていて、これが自主防災会の活動そのものであると言える。

防災における協力体制をより強化するため、16年度実施する町総合防災訓練は、自主防災会の活動を重点に実施したい。



桜井常雄議員

町民に密着した事業を重点に予算編成を

【桜井議員】市町村合併を考えると、16年度の予

算編成は町民に密着した事業に重点的な予算配分を行い、新市に移行したとき後悔のない予算編成をするべきと考える。その例として、次の4点について尋ねる。

赤道などの生活道路で、車両通行ができない道路の拡幅整備を早急に行う考えは。

子どもの通学路でもある、石神伴鳥地内の農業用排水用道路を始め、町内で防護柵、ガードレールのない危険な道路の防護柵等の設置をする考えは

犯罪防止効果にもなる、防犯灯の増設と既存の施設の改良は
神社等にあるごみの収集場所には問題があると思うが、その移転の考えは。

また、町内の私有地等にある収集場所を、公有地として取得するか、または借り上げて整備する考えはないか。



排水路と並行している道路(石神地内)

**防犯灯の新設・改良
はできる限り要望に
添うよう努める**

【高井基盤整備課長】生活道路の改良は地元から多くの要望が出ている。道路拡幅には拡幅部分の用地の取得問題があり、地元や地権者の理解と協力があつて実現できるも

のである。地元の議員さん、区長さんなどの協力を得ながら調整をし、調整が出来たところから予算の範囲で順次進めている。

農業排水路の管理は地元にお願ひし、草刈り等を実施していただいているが、防護柵設置によりその管理作業がやりにくい問題もあることから、地元の理解をいただき、緊急度の高いところから設置している。一般道路のガードレールは、設置したことにより通行の妨げにならない道路で、道路の幅員がある危険箇所から要望に併せて設置している。

収集場所の整備は現在考えていない

【古川経営管理課長】防犯灯の新設・補修は各区長さんから、毎年12月までに翌年度の実施要望箇所の申請をいただき、そ



町内にある燃えるゴミの収集所(石神地内)

の申請書を基に予算計上している。16年度予算についても財政上の許す範囲で要望にそえるよう努力していく。

地元の協力を得ながら実施していく

【日下部産業環境課長】ごみの収集場所は、可燃物127か所、不燃物及び資源物41か所、ペットボトル及び蛍光管16か所、発泡スチロール7か所、乾電池及び牛乳パック6か所ある。可燃物の収集場所は公有地等(道

路敷地、地区集会場敷地、墓地敷地などが75か所、民有地が41か所、神社仏閣敷地が11か所設置されている。収集場所が神社敷地にあるところは適当な場所がなく、やむを得ず選定されたと思う。

ごみの収集場所の設置は、地元の要望に応える方法で設置しているので、変更・新設は地元で対応をお願いしたい。収集場所の整備は、現在のところ町としては考えていない。



石井幸太郎議員

山川橋の待避所の整備は

【石井議員】山川橋は地域住民にとって通勤・通学に重要な路線である。しかし、橋幅が狭く歩行者や車のすれ違いには



朝晩多くの人、車が通る山川橋



非常に危険である。架け替えには膨大な費用を要し、期間もかかることから左岸遊歩道整備と併せて福島側に待避所の整備ができないか伺う。

待避所の設置は考えていない

【高井基盤整備課長】山川橋は老朽化と幅員が狭いことから、現在は6トン以上の車両の通行制限をしている。待避所の設置は、左岸遊歩道整備は、福島側から見て橋の右側に計画しており車両の対面通行を考えると反対側（右側）になり、設置は考えていない。

橋のたもとは、幅員が5・5メートルあり、ドライバー一人ひとりが譲り合い、交通安全に心がけていただきたい。
山川橋の架け替えについては、大事業であり、14年度から基金を積み立てているが、市町村合併

により新市になっても架け替えに努力していく。



【石井議員】川辺町のボート場は、ボート王国として県内外から多くの人



ボート場への案内標識(国道41号中井線入口)

が訪れる。選手や関係者が訪れても会場の案内がわかりにくく、迷ったという声も聞く。訪れた人たちに迷わず安心していただくためにも、また、川辺町のPR、活性化のためにも、わかりやすい看板の設置が望ましいが考えを伺う。



【古川経営管理課長】ボート場の案内標識は、国道41号線沿い町道中井線入り口と山川橋福島側に設置している。町のPR看板は、石神、下川辺地内の国道41号線沿いと福島地内の国道418号線沿いに設置している。

今後、町の活性化のために川辺町を県内外の人たちにPRし、イメージアップが図れるよう、現在設置のPR看板を有効に活用するとともに、ホームページの充実、川辺町へ訪れる方のための案内標識等を財政状況も考慮して設置するよう検討したい。

～お知らせ～

辻議員は病気で下呂温泉病院に入院されていましたが、1月31日に退院され、現在は自宅で療養中です。

編集後記

新しい年を迎え、町民の皆様も新たな希望と夢を抱いておられることと思います。

町議会も昨年8月に改選され、新たな気持ちで行政の課題に取り組み、議論をいたしてあります。議会の活動が

町民の皆さんにわかりやすく、興味をもって読まれるように、今回の議会報より紙面を6段構成にし、見やすく、議事の内容も、できがかぎり集約してお伝えできるよう努めました。

3月は、1年間の町の事業に必要な予算を決める重要な議会でもあります。一人でも多くの方が傍聴され、議会活動を直に感じ取っていただき、意見などをお聞かせください。

《編集委員》 佐伯陽子
桜井常雄
辻 武史
(牧田富朗)